

平成29年度 行政評価 施策カルテ

施策名	3 都市と農村の交流促進
-----	--------------

施策主管課	観光交流課	総合計画記載頁	145ページ
-------	-------	---------	--------

1 施策の位置付け

政策の柱	IV 市民の豊かな暮らしを支える活気と活力のある社会を築くために	政策名 (基本施策名)	20 魅力ある観光と交流を創出する	政策の達成目標 (基本施策目標)	新たな資源が発掘、活用され本市の観光資源の価値がさらに高まり、市民も自らの地域に誇りを持つことで、多くの人に宇都宮を訪れ楽しんでもらえるような、魅力ある観光と交流が創出されています。
------	----------------------------------	----------------	-------------------	---------------------	---

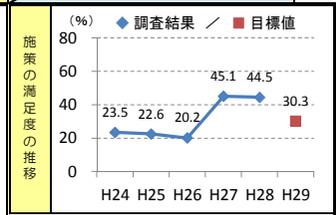
2 施策の取組状況

施策目標	地域住民がコミュニティに参画し、都市住民との交流も活発に行われ、活力ある地域社会が形成されています。
------	--

① 施策指標	指標名(単位)								H24	H25	H26	H27	H28	H29 (目標年)	評価	
	都市農村交流参加者数	単年度目標値	1,400,000	1,400,000	1,400,000	1,400,000	1,400,000	1,400,000								
指標1	現状値	1,338,569人	実績値	1,453,692	1,633,671	1,718,300	1,731,928	1,757,293							A	
	目標値(H29)	1,400,000人	単年度の達成度	103.8%	116.7%	122.7%	123.7%	125.5%								
② 市民意識調査結果	指標名(単位)								H24(現状値)	H25	H26	H27	H28	H29	評価	
	施策の満足度(%)								調査結果	23.5%	22.6%	20.2%	45.1%	44.5%		B
								目標値(H29)	30.3%	前年度からの増減						
										-0.9pt	-2.4pt	24.9pt	-0.6pt			
③ 主要な構成事業の進捗状況 (主要な構成事業の個別の進捗状況は、「3 施策を構成する事業の状況」を参照)																B
【参考】中核市等との水準比較	指標名(単位)								H24	H25	H26	H27	H28	H29		
	中核市平均															
実績値																
中核市での本市の順位																
中核市平均																
実績値																
中核市での本市の順位																

※『①施策指標』の単年度の達成度の計算について

★ 通増型の指標(目標値が基準値より増加することが望ましいもの)	$\frac{\text{実績値}}{\text{目標値}} \times 100 (\%)$
★ 通減型の指標(目標値が基準値より減少することが望ましいもの)	$\frac{\text{目標値}}{\text{実績値}} \times 100 (\%)$



① 施策指標	A: 達成度90%超 [33点]	B: 達成度70%~90% [25点]	C: 達成度70%未満 [15点]
② 市民意識調査結果(満足度)	A: 前年度より向上 (+5pt超) [33点]	B: 前年度同水準 (±5pt以内) [25点]	C: 前年度より低下 (-5pt超) [15点]
③ 主要な構成事業の進捗状況	A: 計画以上 (主要な構成事業の2割超が計画以上) [33点]	B: 計画どおり (主要な構成事業の8割以上が計画どおり) [25点]	C: 計画より遅れ (主要な構成事業の2割超が計画より遅れ) [15点]
総合評価	順調: (A評価が2つ以上(C評価がある場合を除く。)) [90点以上]	概ね順調: (主にB評価が2つ以上) [65点以上90点未満]	やや遅れている: (C評価が2つ以上) [65点未満]

取組内容と成果・成果の要因、進捗の状況

施策を取り巻く環境等	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年に閣議決定された観光立国推進基本計画においては、国際競争力の高い魅力ある観光地域の形成に向け、優れた自然の風景地に関する観光資源の保護、育成及び開発に係る取組みの一環として、農泊ビジネスの実施体制の構築や農林漁業体験プログラムの開発など、滞在型農山漁村の確立・形成が必要とされている。 栃木県観光客入込数・宿泊数推定調査によると、県への観光客入込数は平成23年に震災の影響で大きく減少したが回復傾向にあり、平成28年は約9,092万人と過去最多を更新した。 農産漁村地域において、自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動である、グリーンツーリズムへの関心が高まるとともに、農業を営んでいる農家が農作業体験等を旅行者に提供し、住居などに宿泊させる農家民宿も全国に広がっている。また、農家に限らず、既存の住宅を活用した宿泊を提供することができるようになる「住宅宿泊事業法」も平成30年1月に施行される。 	市民満足度	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度も参加者数の目標を達成した。これは各施設において内容を充実させたイベントの開催や来場者に対する心のこもったおもてなしを実施し、満足度向上、誘客促進を図ったことによるものである。 なお、農林公園ろまんちっく村は、道の駅としてリニューアルオープンして以降、来園者が増加し、指定管理者が実施する地域と連携した各種イベントの開催に伴う誘客効果もあり、平成28年度は対前年度比101%の約142万人が来園した。
施策指標			<ul style="list-style-type: none"> 前年度から施策満足度は下がったが、各施設での積極的な取り組みやイベントの開催等により、44.5%と目標を達成した。

総合評価	83点
概ね順調	

3 施策を構成する事業の状況

※凡例 ○:「総合計画の戦略プロジェクト・主要事業」対象、★:「③ 主要な構成事業の進捗状況」対象(5事業選択)

No.	事業名	戦略P・ 主要事業 ※	事業の目的	事業内容		事業の 進捗状況	H28 事業費 (千円)	開始年度	日本一 施策 事業	施策目標を達成するための取組方針
				対象者・物(誰・何に)	取組(何を)					
1	農業・農村ふれあい交流事業	○★	・農業・農村地域の活性化と 交流人口の拡大	・梵天の里 食と緑の会 ・NPO法人とちぎグリー ンエージェント	農作業体験及び農家生活体 験に係る費用の一部を補助	計画どおり	174	H17		市外からの観光者や市民を含む都市住民に対し、農作業体験等のふれあい交 流事業を実施する団体を支援するとともに、民間事業者や農業者と連携しなが ら、本市の地域資源を活用した着地型観光ツアーの紹介や内容の充実を図る ことで、都市と農村の交流促進や農村地域の活性化、交流人口の拡大を図る。
2	農林公園整備事業	★	・農林業観光交流施設の充 実	指定管理者	施設の維持保全、魅力向上 に伴う整備等	計画どおり	23,089	H8		管理運営が適切に実施されるよう、モニタリングを行うとともに、施設の維持修 繕工事を計画的に実施していく。また、指定管理者と連携を強化しながら、来園 者に親しまれる公園となるよう、施設の魅力向上を図る。
3	地域交流館整備事業	★	・農林業観光交流施設の充 実	指定管理者	施設の維持保全等	計画どおり	7,538	H20		管理運営が適切に実施されるよう、モニタリングを行うとともに、施設の維持修 繕工事を計画的に実施していく。また、指定管理者と連携を強化しながら、利用 者に安らぎを与える施設となるよう、施設の魅力向上を図る。
4	食農体験学習事業(農業企画課)		・児童及び生徒が、農業及び 食への理解や関心を深め、 併せて、豊かな心を育む。	各市立小・中学校の食 育体験事業を実施する 団体	農作業体験及び自ら収穫し た農作物の食味体験	計画どおり	5,301	H12		市内の全小・中学校において、地域や地元農業者と連携した積極的な事業展 開が図られるよう、各学校の取組内容の充実に向けて支援していく。
5	農林業祭開催事業(農業企画課)	★	・農生産者と市民(消費者)の 農林業に対する理解と関心 を深める。	宇都宮市農林業祭開 催委員会	農林業祭(イベント)の開催経 費の一部交付	計画どおり	2,750	S37		本市の農林業振興や農畜産物の地産地消を推進し、更なる誘客促進を図るた め、開催支援を継続するとともに、関係機関と連携し、イベント内容の充実や効 果的なPR方法について検討しながら事業を推進していく。また、農林業祭は、 本市農産物の販路拡大のための有効な機会であることから、消費者等のニー ズ把握に取り組んでいく。
6	宇都宮さつき&花フェア開催事業	★	・市花のPR・花き・花木の普 及定着と生産振興	宇都宮さつき&花フェア 実行委員会	宇都宮さつき&花フェアの開 催に係る費用の一部を交付	計画どおり	1,330	H8		「宇都宮さつき&花フェア実行委員会」を通じて、市の花「さつき」の理解促進と 花き・花木の振興や更なる誘客促進を支援し、事業内容や海外へ向けたPR方 法を検討しながらフェアを開催し、交流人口の拡大を図る。

4 今後の施策の取組方針

今後の方向性	
<p>課題</p> <p>◆都市と農村の交流を促進するためには、ろまんちっく村などの民間事業者及び農業者と連携しながら、農作業や自然観察などの体験メニューの充実など、地域資源を活用した本市ならではの着地型観光などを展開していく必要がある。</p> <p>◆「ろまんちっく村」や「上河内地域交流館」などの農林業観光交流施設は、さらなる集客の向上を図るために、引き続き適正な維持管理を行うとともに、常に魅力的なサービスを提供する必要がある。</p>	<p>方向性</p> <p>〈施策全般〉 ◆都市と農村の交流促進を図るため、本市の豊かな農資源を活用した農作業体験や自然体験等の充実、さつき&花フェアなどの交流イベントの展開を図るとともに、ろまんちっく村・上河内地域交流館などの観光交流拠点との連携した、本市ならではのグリーンツーリズムを推進し、魅力的な事業の展開に取り組む。</p> <p>〈主要事業〉 ◆農業・農村ふれあい交流事業については、都市と農村との交流促進や農作業等の体験を通じた本市の豊かな「農」への理解促進を図るため、農業者や民間事業者・地域と連携して、都市住民のニーズに対応した体験メニューの充実や地域資源を活用した着地型体験ツアーの実施など事業内容の充実を図る。</p> <p>〈その他個別事業〉</p>